

# 2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 11 節 vs. カターレ富山

5/28 (日) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



## 2023 J3 順位表 第10節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	長野	20p	+8	20	12
2	富山	20p	+7	19	12
3	愛媛	19p	+1	13	12 A●
4	奈良	18p	+8	15	7
5	鹿児島	18p	+5	15	10 HO
6	今治	16p	0	13	13
7	松本	15p	+3	16	13 H△
8	岩手	14p	+3	17	14
9	鳥取	14p	+1	18	17
10	八戸	13p	+2	13	11 A●
11	沼津	13p	0	12	12
12	FC大阪	12p	-3	8	11 H●
13	宮崎	12p	-5	8	13 A●
14	讃岐	12p	-8	6	14 AO
15	岐阜	11p	0	11	11 --- ---
16	YS横浜	10p	-4	14	18 H●
17	琉球	10p	-5	11	16 HO
18	福島	9p	-4	6	10
19	相模原	8p	-3	10	13
20	北九州	6p	-6	10	16 A△

## 次回HomeGame

第14節 vs.SC相模原

6/18 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00

※売り切れ次第、終了です  
火、水、金、土(祝日除く)営業

TEL. 058-252-1580

忠節橋  
通り

JR 岐阜駅  
北口より  
北西方面へ  
徒歩約 10分

★ アミカ

ドミー  
イン

JR  
岐阜駅

## today's guest : カターレ富山

2022 J3 19勝3分12敗 勝ち点60: 6位

### 直近の対決と結果

2022/10/09  
J3 - 28節@長良川

### 岐阜 1-3 富山

藤岡浩介 scored.

### ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	カターレ富山
2023/05/20 天皇杯1回戦@メドウ岐阜 2-1 新潟医療福祉大	2023/05/21 天皇杯1回戦@高岡コア富山 2-1 北陸大
2023/05/14 J3-10節@ピカスタ讃岐 0-2 岐阜	2023/05/14 J3-10節@富山富山 1-0 福島
2023/05/06 天皇杯県予選@メドウ岐阜 11-0 岐阜聖徳学園大	2023/05/07 天皇杯県予選@富山富山 0-0(pk4-2) 富山新庄クラブ

●2023 シーズンは、まずまずのスタートを切れたかと思えた3月から一転、4月に3連敗を喫してしまったFC岐阜。5/3(祝)第9節・ホームYS横浜戦は、連敗ストップを懸けた試合だったが、不用意な守備で2失点。PKで1点を返すも反撃はそこで終わり、1-2で最下位(当時)のチームに敗れて4連敗。あまりに不甲斐ない戦績に、試合後にはゴール裏から選手たちに激しい叱責の音が響いた。そして、中3日で迎えた5/6(土)天皇杯の岐阜県代表決定戦。岐阜聖徳学園大を相手に、メンバーを大幅に入れ替えて臨んだ岐阜は、これまで出場機会に恵まれなかった選手たちが活躍の場を求めて奮起し、大量11点を挙げて11-0で勝利。岐阜県代表として天皇杯に出場することとなった。そして1週間後に再開されたリーグ戦、5/14(日)第10節・アウェイ讃岐戦では、前週の試合で活躍した選手の幾人かが起用された。前半は両チームとも無得点に終わったが、後半になると岐阜は#8窪田稜と#17藤谷匠の2得点、守っては無失点で2-0で5試合振りの勝利。アウェイでの15試合未勝利も、ようやくストップすることができた。そして、翌週の5/20(土)には天皇杯1回戦が開催され、長良川球技メドウで新潟県代表・新潟医療福祉大と対戦。昨年インカレ準優勝の強豪チームに苦しめられた岐阜だったが、#45ソドカ・チャールスが相手GKに詰めた結果、弾かれたボールはゴールに吸い込まれ、先制点。しかし、試合終盤に追いつかれて、嫌な流れになったが、#11藤岡浩介がゴール前で右足を一閃し、貴重なゴールを挙げる。これが決勝点となり、2-1で岐阜が勝利。2回戦に進出することができた。

この4試合の結果、天皇杯では6/7(水)に2回戦で清水との対戦が決定し、リーグ戦では順位が15位に。まだ下位と呼ぶ方が正しい位置に留まっているが、勝点差3で8位・盛岡が見えている状況にまでは戻ってこられた。そして、現時点でも首位・長野と2位・富山との勝点差が9と、大混戦の2023年J3リーグ。これからチームを立て直すことが出来れば、まだ上位進出のチャンスは十分に残されている。現在はリーグの約1/4を消化したところだが、今季の岐阜は失点は少ないものの、それ以上に得点力が低いことが、下位に低迷している大きな要因と言えるだろう。逆に言えば、攻撃陣の入れ替えや配置の見直しを積極的に行って、上手くフィットする組み合わせを見つけることが出来れば、勝利を積み重ねることも不可能ではないはずだ。上野監督には、積極的な選手の起用そして采配を期待したい。

さて、今節の対戦相手は、先述した2位・カターレ富山だ。昨季は6位、しかし今季は、昨季途中から指揮を執る小田切道治監督体制を継続し、かつ主力選手のほとんどが残留した上で、戦力を補強。今季は今のところ、接戦で勝利を重ねて好調を維持している強いチームだ。富山で最も警戒すべき選手は、#39高橋駿太で異論は無いだろう。どんな体勢からでもゴールを狙うプレーで、富山の総得点の約1/3である現在6ゴール。裏抜けも得意なので、少しでも隙を見せるとピンチを招く。岐阜の守備陣は、しっかりと連携して彼を自由にさせないことが、まずは重要だ。なお、かつて岐阜に在籍していた#18川西翔太(19~21年)だが、5/7(日)に全治4週間の負傷をしたため、「凱旋」は難しいだろう。

直近3シーズンの(J3での)富山との対戦成績は、3勝1分2敗・8得点6失点。昨季のアウェイ・4/10(日)第5節は、3-1で岐阜が勝利したが、直近の対戦である10/9(日)第28節・ホーム戦では、逆に1-3で敗れている。今日の試合も、岐阜にとって苦しい展開になるのは間違いないが、ホームで無様に負けるのは、もう見たくないし、選手たちも見せたくないはずだ。ましてや隣県対決、普段以上に勝利への執念は強いはずだ。

完全に終息した訳ではないが、新型コロナが「5類」に移行したことで、公開練習やファンサービスも再開されるようになった。そして今節からは、ピックフラッグも解禁される。まだまだ苦しいチーム事情だが、ホームでは、僕らFC岐阜サポーターの応援で、選手たちを最後まで鼓舞し、背中を押し続けたい。今節こそ、このホーム・長良川で強敵相手に勝利を収め、歓喜を選手たちと分かち合い、ともに「勝利のHYPER CHANT」を歌おうじゃないか。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第9節】 岐阜 1-2 YS 横浜

●一昨年に未勝利だった際に対戦して、後半A Tにホームで逆転負けした、あの屈辱的な記憶が未だに消えないYS横浜戦。でも、YS横浜は前節の今治戦で今季初勝利を収めたから、そのイヤなジメスは消えたはずだから、勝てるだろうと、最初は思ってたんだけどなあ……（溜息）。

中2日ということもあり、岐阜はスタメンを入れ替えて臨む。しかし、3連敗中かつ連戦の疲労が溜まっているのか、どうにもプレーがピリッとしにくい。一方のYS横浜は、前節で勝利した勢いのままに攻めてくる。んで、1点目の失点シーン。明らかにウチのイージーミスですよ……相手のアーリークロスに着地点を読み違えてますもの。しかも、こちらは守備が2人いて、2人ともミスってるのは何故……（溜息）。んで、失点したんだから積極的に攻めないと同点には追いつけないのに、相変わらず相手ゴール前に迫ることなく、後方やサイドでボールを繋いでるのは何故……（溜息）。無理な体勢で攻めてカウンターを浴びるのを警戒する気持ちは分かる。だけど、ゆっくりボールを繋いでたら、バックパスとか入れて時間かけてたら、その時間だけ相手を守りやすくなるんですが何故……（溜息）。そして後半キックオフ直後。さあこれから後半はギアを上げて同点そして逆転だ！っていう雰囲気は微塵もなく、あっさり2失点目を献上するのは何故……（溜息）。PKで1点返したけれど、そこまで。泥沼の4連敗。申し訳ないけれど、監督の戦術云々よりも以前の話として、チーム全体として見た場合に、積極的かつ最後まで勝利を目指す気持ちに欠けていたとしか、表現が思いつかない試合に見えた。試合後に激しいブーイングが飛び交うのも当然かなと。こんな試合をホームでやってはダメだ。チームとして何が足りないのか本気で話し合っ、そしてチーム全員で切磋琢磨して、この苦境を乗り越えて欲しい。（ささたく）

●結果については特に何もなし。予想の範囲内。手を抜いたり、諦めたりした選手がいるワケじゃない。最後までガンバってくれてました。2点目以外はね（苦笑）杉田くんは自責の念に駆られたのではないかな。夜になっても眠れなかったかもしれない。CBが一対一でやられて、あろうことか、転がされたワケだから失点に繋がってしまうのもやむなし。アレはなんとかして欲しかったところだが、コレを糧にさらなる成長を期待してます。ガンバレ！

さて、試合以外の話を。試合後の様子を見て、「あー、こりゃ、あるな。やるな。」と思った残業。しばらく眺めてたけど、途中で引き上げ。だから、クラブが対応したかどうか知らないが、居残る気持ちはわからなくてもいい。

でも、さ。誰から、どんな回答をもらえば気が収まるのかな？ 対応する方としては「申し訳ない。頑張ります！」としか言えないでしょ？ それとも、「責任取って辞めます。」って回答を求めているの？ 今、誰かが辞めてよくなるの？ 監督？ 社長？ ウチの経営状況でソレは出来ないよ。違約金を払って、また、新たな契約金とか。既に2年連続で赤字。来季赤字になったらライセンス剥奪だよ？ ウチの代わりはいくらでもいるんだから。

今のウチは三重苦。『赤字』『基盤作り』、さらに『監督の育成』まで引き受けちゃってる。上野さんもキツイよね。代表含め、スタッフとしての経験はあるけど、監督としての『引き出し』がない。ないというか、出来てない。苦しい時、上手く回らない時の対応策、特効薬とかが。自家薬籠中の物、なんて状況には程遠いよね。だからこそ、今、出来るのは、気持ちはある、身体を張ってる、なのに結果が出なくて落ち込んでる選手達をアゲることだけだよ。

試合の直前。いつも聞こえてくる久世さんの煽り。『12番目の選手』だからこそ、選手と共に敗戦の責任も引き受けて分かち合う。そうであってほしいな。

あ、あとさ。残業して、それなりに話をして帰っていくヒトはいいんだけど、そこからが仕事のスタッフさん、そして、

ボランティアさんがいるってことも忘れないでくださいな。ぶっちゃけ、委託業者のスタッフさんは残業手当があるかもしれない。けど、グリーンズの皆さんにはそんなのないでしょ？ ご存知だろうけど、グリーンズには、試合を見ないで運営に尽力してる方もいる。その辺は配慮してほしい。いったん、スタジアムから出て話してもいいんじゃないかな？ コルリとかはクラブ上層部とのホットラインもあるでしょ？ そこら辺を詰めてから、その内容をゴル裏に伝えることだってできるんじゃないかなあ。

まあ、ココで書いたようなコトをざっくばらんに直接コルリに聞いてみようとは思ってる。幸い、面識はあるし、もともと、代々のコルリはみんな、話は聞いてくれるヒト達ばかりなのはありがたいね（聞き入れてくれるとは言っていないよ、頑なな信念が無けりゃやってけないしね。コルリなんて）。楽しみだな（笑）。（ぐん、）

●試合が終わった時、途方に暮れた。ホントに途方に暮れた。『途方に暮れる』とは、こういうことさ」と『紅の豚』のポルコ＝ロツンに言われたみたいに途方に暮れた。どうすれば現状を打開できるのか、まったく見当がつかなかった。

八戸に負けた（今季初黒星）時、「負けても1点差ならOK、試合にはなっている」と『岐大通』と書いたのを選手やチームスタッフが読んでいるのかも……と思ってしまうくらい、FC岐阜は「負けても1点差」をずーっとキープしている。そのおかげで、「順位」や「勝ち点」の割に「得失点差」は悪くない。よかったよかった……なわけ、ないじゃん。

押しチームの負けがこんできた時に「勝つ気あんのか?!」とか「やる気あんのか?!」とかの罵声をサポが選手やチームスタッフに叫ぶというのはよくある事象だけど、今季のFC岐阜にはまったく相応しくない。なぜなら、いまの不振は「勝つ気がない」わけでも「やる気がない」からでもなく、単純に『弱い』からだ。軽い対人守備、つながらないパス、枠に行かないシュート。どれもが「いまのJ3にFC岐阜の居場所はない」と、わかりやすく示している。そう考えると、現状は「不振」ですらなく、「相応しい現在位置」なのかもしれない。このYS横浜戦では、スタメンでこれまでの「連携のないFW」「推進力も推進意志も感じられないMF」に手をつけてくれた。改善するかはともかく、改善したい意志はあるんだなと思った。しかし、先制点のピンポイントクロスはともかく、後半開始22秒の失点につながる中央の守備の軽さには絶望するしかなかった。鹿児島戦での大活躍はなんらかのブーストがかかっていたのかなあ。

だから、選手のパフォーマンスそのものに対して上野監督を批判してもしょうがない。選手が出来ないのだから仕方がない。それでも、監督には「チームの結果を出す」責務がある。「J3には居場所がない」パフォーマンスしか出せないチーム状況でも、居場所を残さないとはいけない。コーチではないのだから、それが仕事です。「FC岐阜は降格しましたけど選手は成長しました。一緒に自分も成長しました」では、現・J2チーム監督の誰かさんではないか（苦笑）。

開幕前に小松社長は「上野監督はサッカーの引き出しをたくさんお持ちだ」とか言っていませんでしたっけ。「引き出しはたくさん持ってるけど、実はどの引き出しも開かないんです。でも嘘はついていませんよ、引き出しはたくさん持ってます」なんてギャグなオチはナシでお願いします。（吉田铸造）

## 【天皇杯県予選】 岐阜 11-0 聖徳大

●リーグ戦4連敗を喫してから、中3日での天皇杯県代表決定戦。相手はナンバサ……もとい難波宏明監督が率いる岐阜聖徳学園大学。FC岐阜セカンドを倒した若い勢いが今回も発揮されれば、チーム状況が悪いトップチームも喰われるんじゃないかと、そんな不安を抱えていたのは、おそらく僕だけじゃないと思います(苦笑)。

ところが、だ。これまでリーグ戦で出場機会に恵まれていなかった選手たちが、活躍の機会を求めて奮起する。もちろん、相手が(岐阜の)大学生で普段とはレベルが違うという決定的な違いはあったと思う。だけど、後方からボールを受けた瞬間にターンして前を向く、とどんと縦にボールを運ぶ、ガンガンとシュートを撃っていくといった積極的なプレーは、やはり僕らも見ていて気持ちに乗ってくる。しかも久しぶりのメドウ。声出し禁止だから選手たちの声やボールを蹴る音が響いてくるし、バックスタンドだと迫力は段違い。んで、ゴールに飢えた選手たちは、点差が離れても攻撃の手を緩めないのが、また素晴らしい。岐阜聖徳学園大の選手たちには、少し可哀想だったけれど……(苦笑)。終わってみれば、大量得点そして無失点で圧勝。大学生相手とはいえ、公式戦。これだけゴールを奪って勝利すれば、今まで不振だった攻撃陣も少しは自信を取り戻せるだろう。なんならJ3リーグ再開となる讃岐戦は、結果を出したこのメンバーでいけば良いんじゃないの?と僕は思ったぐらいだ。負け続けて酷いGWだったのが、ようやく何とか薄明かりが差した、そんな試合だった。(ささたく)

●いや、ホント、いい世の中になったよね。諸事情で参戦出来なかった、岐阜県サッカー選手権決勝(天皇杯岐阜県代表決定戦)と天皇杯一回戦が、ダイジェストとはいえ、動画で見られるってんだから。代表決定戦は例年地上波で流してくれるはずだから予約録画して……と思ってたのになあ。

それにしても、11点ですか。11-0って何スコア?クラブ史上3回目らしいけど、前回は見てないから。ボクが目黒いうちには、もうないだろうなあ。ダイジェストとはいえ、11点とも見ることができて、とても嬉しい。

ただ、ナンバサダーは苦笑してたかも。「ここまでやってくれとは言っていない……」って。こういうフラグだったか、あのセンターサークル応援団。お疲れ様でした、というか、ありがとうございました、というか。さすがはナンバサダー。持ってますね(笑)。(ぐん)

●準決勝の岐阜セカ戦もスタンドで観ていた(聖徳2-1セカ)ので、聖徳がその時と同じくらいのパフォーマンスで、岐阜トップ(以下『岐阜』)が相変わらず不振で、なおかつ相手をナメてかかったらわかんないぞ……と思ってましたが杞憂でした(笑)。

CBにタクミが復帰。あと右ワイドに横山、中の前目に久保田カズネ、左ワイドに上野アキト。FWはチャーリーとヤマヒロ。他にもいろいろと手を掛けて上野監督は「リーグ戦では出来ない試用」をしてきた感がある。

そしてそれは成功したと言っていい。とにかく、横山の動きの質の高さ。下がってプレスかけるし、攻撃時は上がってFWラインまで張るので聖徳の左SBも下がる。それで中に絞っていくので右にアユムが上がるスペースが出来る。

あと、チャーリーがすごく動きやすそうだったけれど、これは相手関係もあるかも。オイちゃんもリーグ戦での役割と違って下がり目の方が生きる気がしたけど、これも同様。

というわけで、リーグ公式戦でベンチに入れてほしいのはタクミと横山とヤマヒロ。タクミはスタメンで出してほしい。いまの岐阜が抱えているセンターの対人守備の軽さが改善されるといいな。(吉田铸造)

## 【第10節】讃岐0-2岐阜

●先週の実業団代表決定戦では快勝したし、さあリーグ戦でもスタメンは彼らが…と僕は期待していた。が…まあ数人は変わった。だけど、これだけ「しか」変更が無いの!?もつと他に、起用してあげないって思う選手が何人かいたと思ったんだけどなあ。やっぱ、J3レベルには足りていないと評価されてるのかなあ。

さて、試合は序盤から荒れた展開。相手選手が脳震盪の疑いで交替したかと思えば、#1茂木秀の顔に相手選手の踵が接触(個人的には、接触そのものは不可抗力だったと思うけれど、笛が吹かれたのにボールを蹴ったのは如何なものかと思う)。そして流血。なんだかプレーが中断されてばかりいて、ボールは支配できているものの、良い流れに持って行けないまま前半が終了。このまま終わりにたくないなあ…と思っていた後半50分、ゴール前でこぼれたボールを#8窪田稜が冷静に決めて先制点!これで勢いに乗った岐阜、#24上野輝人がGKと1vs1になったけれど決められず…(苦笑)。うーん、あそこは冷静に蹴ってJ初ゴールだと思ったんだけどなあ。前半にはポスト直撃の至近弾もあったし、まあルーキーに要求するのは酷かもしれないけれど。あれを決めるか外すかで、その後のサッカー人生変わっちゃうから、今後は冷静にね?その後、#14生地のCKから#17藤谷匠がヘッドで詰めて追加点!いやー、なんか#17藤谷匠がヘッドで決めるとオフサイド採られることが多い印象があるけれど、これは完全に“ごつつあん”ゴール。何よりです。

これで2点差となった岐阜は、それほど無理せずボールを支配して時間を使い、2-0で勝利。今季、一番安定していた勝利だったと思う。一方、こんな試合をホーム戦で見せられた讃岐サポ、その心中は痛いほど良く分かる気がします(苦笑)。

とりあえず連敗脱出。そして10試合で勝点11ということは、“JFL降格圏脱出”ですね?(苦笑)。久しぶりの勝利に、少しは選手たちも気持ちが和らぐだろう。だけど課題はあったし、やはりホームで勝利を見たい。今節は、頼みますよ!(ささたく)

●結果は2-0。けど、点差以上の内容だった。間違いなく今季一番の試合。なんといっても、完封したのがいい。この試合より得点は多かったがラストが締まらなかった琉球戦とは後味が大きい。さらに、CKからの得点というのが、また素晴らしい!そして、ソレを決めたのが復帰初戦のタクミ、というのがまた格別ですね!田口のフリック、竜の折り返しもよかった。練習を重ねてきたパターンかな?ニアからファーで真ん中へズドン。いや〜、美しかったね。

でも、タクミよりゴールを決めた感を醸し出しながら、バクスタへ駆け出して行った竜が全部持っていったね(笑)それにしても、ああいう風に駆けつけて来てくれるのはたまらなく嬉しい。この時のバクスタは欣喜雀躍だったろうな。羨ましいよ。

こういう試合が出来れば降格は……、いやいや、まだまだ早い。相手もあることだし、また夏が来るし。手放しでは喜べない。喜んじゃいけない。それでも、ガマンしようとしても、どうしても笑いが止まらない(ここまでが辛かったもんね)。そんな試合でした。続けたいね!(ぐん)

●スタメンを視て安心した部分と、試合を視て首をかしげた部分と。まず、天皇杯県決勝で戻ってきたCBタクミとFWヤマヒロをスタメンに入れたこと。最近スタメンを張ってた杉田君はベンチ外。まあ、彼に関してはこここのところ対人守備の弱さが目立ってたから、キチンと調整して「成長」してほしいところ。

試合は、「ゴール前で深いところから真横のパスが入ると対応が弱くなる」讃岐の弱点をキチンとついでの2得点。そして、鹿児島戦以来のクリーンシート勝利。でも、ふたりの『上野』についてはモヤモヤするんだな……。まず、上野輝人。宇賀

神が抜け出して中に入れたところに走り込んだまでは完璧、でもなんでGKの位置も視ずにただ蹴っ飛ばしてしまうのかしら。あそこで落ち着けるように、これから「成長」してほしいです。あと、もう一人はもちろん上野監督。なんでチャーリー&コースケのセットに拘るのか、これはどうしてもわからない。この2人を同時にピッチに入れても『コンビ』にはならないって、開幕戦からずっとそうだったでしょう。なので、勝ったことが素直に嬉しいけれど、だからといって「これで負のスパイラルから抜け出た！」とは、どうしても思えないのですね。(吉田铸造)

## 【天皇杯】 岐阜 2-1 新潟医福大

●いよいよ始まる 2023 年天皇杯。1 回戦の相手は新潟県代表の新潟医療福祉大。昨季インカレ準優勝、Jリーガーも輩出する新進気鋭の強豪チーム。だけど、こちらにも仮にも J3 チーム。簡単な相手では無いと分かっているけど、やはりプロとしての矜持を見せて…見せられたのかしら？(苦笑)

やはりトップレベルの大学生チーム、よく走る。それにフィジカルも強い。天皇杯パンフレットを読むと、アルビレックス新潟と連携して練習してるんだとか。そしてチームとしての積み上げもある。んで、素早く詰めてくる相手に対して、岐阜は再び「後ろでボールを回すだけ」の悪い状態になってしまったように見えた。そこでボールを奪われてシュートを撃たれるヤバい展開。前半スコアレスで終わったのは、本当にラッキーだった。そこでハーフタイムに岐阜は選手を 2 人交替。立て直しを図り、それは奏功したけれども、一進一退の攻防が続く。我慢比べの時間帯が過ぎていくと、後半 71 分、相手 GK が処理にもたついた際に #45 ンドカがボールに肉迫。GK が蹴ったボールが身体に当たり、跳ね返ったボールはゴールに吸い込まれ…まさかの先制点！？(苦笑)そして、気持ちは分からんでも無いけど、脱いだらイエロー貰うの確定なのに「えっ？」って顔したチャーは？(苦笑)

これで無失点に抑えられたら良かったけれど、さすがはインカレ準優勝校、昨年の天皇杯では八戸を倒し、鹿島を苦しめたチームだ。最後まで走り続け、こちらの守備が緩んだ隙を見逃さず、同点に追いつく。若いチームを勢いづかせてしまい、これはかなり危険な展開…と誰もが感じた直後、その暗雲を振り払ったのは #11 藤岡浩介の右足だった。今季なかなかゴールを奪えなくて、懔然とした表情を見せていたストライカーが、その鬱憤を晴らすかのような強烈なシュートで追加点を挙げ、そしてこれが決勝点。やっぱり #11 プリンスは、この位置で仕事をしてくれる選手なんだなあ…と改めて感じるプレーでした。とりあえず、勝てて良かった。試合後の新潟医療福祉大への大きな拍手が示していたように、本当に強い相手だった。さて、次は清水。今度は純粋に挑戦者として、立ち向かって欲しい。(ささたく)

●今年もめでたく迎えることができた天皇杯一回戦。こちらも現地観戦が出来なかった。残念。ただ、ダイジェストを見た限りじゃ全体的に押され気味だったのかな？前半に失点しなかったのが、いや、相手が得点出来なかったのが勝因だったようにすら見受けられた。それくらい、圧倒的に攻め立てられてたのかな？だからといって、主導権を握ってた方が勝つ！とは言いきれないのがサッカーだから。そんな感じでストレスが溜まりまくっていたからこそ、あのチャーリー。先制後のパフォーマンスに繋がったんだろうか(苦笑)。さて、次は久々の日本平。今度こそ、何としてでも参戦したい。え？クラブが【観戦ツアー】を企画するかも？だって!?マジですか〜！(ぐん)

●率直に言って、医福大は強かった。今年の「元日・国立・決勝」だった大学選手権(通称『インカレ』)で準優勝。弱いはずがない。前半が終わって、「これはマズい」と真剣に思った。縦の推進力が違い過ぎる。「受けてから前へ進む」「とにかくボール口

ストを嫌がる(そのためバックパスが多い)」岐阜に対し、外連味(けれんみ)なく前に向かって仕掛けていく医福大。そして高い気温。「後半は走り負ける」と思った。それでも勝てたのは、「後半も走り負けなかった」こと。チャーリーのナイス・チャージで先制点(でも直後のユニ放り投げはアカンでしょ、試合はまだ 20 分近くあるんだから)。でも、医福大はキツキツと追いついてくる。コースケの豪快シュートで勝ち越したあとも「ちゃんとやらないと追いつかれる」って恐さはあった。

先にも書いたけど、今季の岐阜はとにかく「仕掛ける」動きが乏しい。「推進」の意志を具現化していたのはリョウ君だけ。火力もフォーメーションも乏しいチームが勝っていけるほど、J3 の他チームはヤワじゃない。これで公式戦 3 連勝ではあるのだけど、YSCC 戦での傷が癒えるまでには至らない。(吉田铸造)